

栃木県の皆さんへ

これから夏休みに入ると、海に行く機会が増えるかもしれません。
下記に紹介する事例や安全対策を確認してから海へ行き、安全にマリンレジャーを楽しんでください！

事故者（栃木県在住）は、夏休みに家族とともに海水浴場を訪れ、一人でスノーケリングをしていた。

夢中になり浅瀬から足のつかない深さまで来たところで、大量の海水を飲んでしまいパニックとなり溺れてしまった。

付近遊泳中の目撃者が事故者を砂浜に引揚げた。

▲事故の原因▲

- ☑保護者の目が届かない場所で遊んでいた。 ☑救命胴衣きゅうめいどういを着用していなかった



海での事故を防ぐためには



◎遊ぶ前に天気予報をチェックし晴れた風の穏やかな日に遊びましょう！

◎サイズの合った救命胴衣を正しく着用しましょう！

◎子供から絶対に目を離さない様にしましょう！

かんしいん
◎監視員がいる海水浴場で泳ぎましょう。

海の事件・事故は「118番」!!

きんきゅうつうほうようでんわばんごう

～118番は海上保安庁が運用する海の緊急通報用電話番号です～



皆さん、「海上保安庁」をご存じですか？

海上保安庁は海の警察、消防、救急として、昼夜を問わず日本全国あるいは世界の海で皆さんの安全・安心を守っている組織です。

海上保安庁の仕事に興味があれば、見学等も受け付けていますので
東京海上保安部までお気軽にお問い合わせください。(Tel:03-5564-1118)



←「Water Safety Guide」
海で安全に遊ぶための
総合情報サイトです！要チェック！



←「Net118」
聴覚や発話に障
がいのある方が
利用できます。

事故発生状況は
次へ！





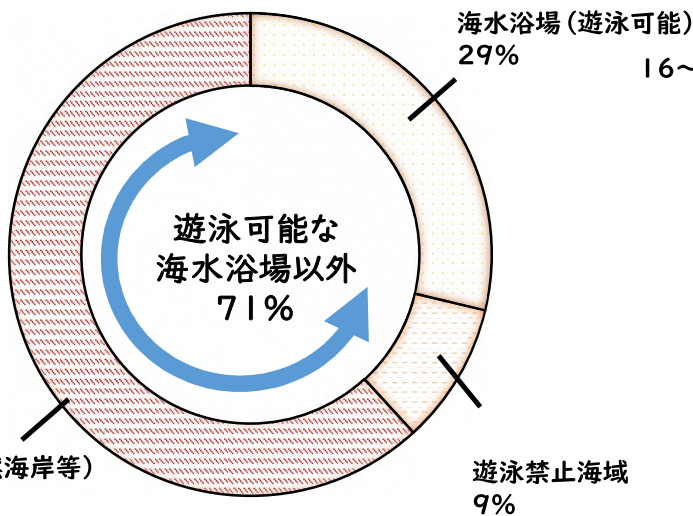
海の事故に注意



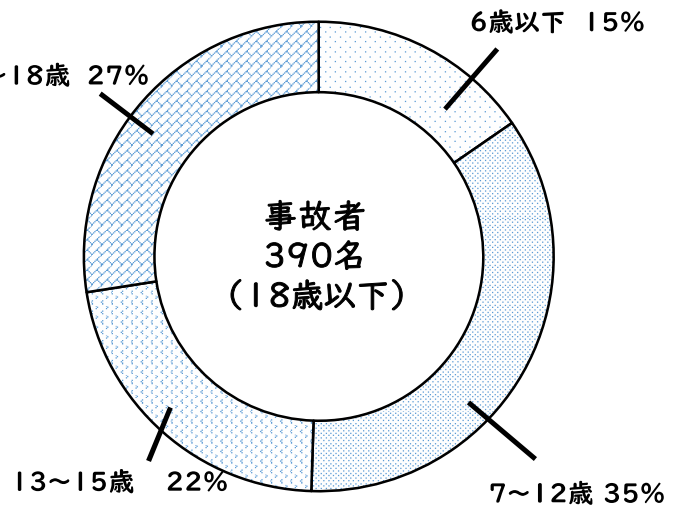
全国の海浜では、遊泳中の事故が多発しており、その多くは**夏休み期間中に発生しています!!**

過去5年間(2020年~2024年)における18歳以下の事故者は**390名**で、そのうち**45名**(12%)の方が亡くなっています。

遊泳場所別割合



年齢別割合



【海浜事故の71%は海水浴場以外で発生しています!】

○若年齢層(18歳以下)による海浜事故の分析

発生状況: **約82%が夏休み期間に発生**(内訳: 7月120名、8月198名)

発生場所: 約71%が海水浴場以外の場所で発生(遊泳禁止期間中の海水浴場を含む。)

主な原因: 漂流146名(約37%)、波に引き込まれる65名(約17%)、深みにはまる55名(約14%)

※ 事故の26%は、天気の悪い日(強風・波浪の注意報・警報発令中)に発生しました。

あ
事故に遭わないために...

かんしん
監視員がいる海水浴場で泳ぎましょう。

理由1) 海水浴場は、ライフセーバー等の監視が行き届いており、万が一の時の救助体制が整っています。そのため、早期に事故が発見され、迅速な救助が実施されます。

理由2) 海水浴場は、安全に遊泳することができる遊泳区域がブイで定められています。

波が高い日は、泳いではいけません。

高い波や強い風の影響で、溺れたり沖合いに流される危険性が高くなります。

りがんりゅう
事故発生要因の30%は離岸流
によるものです。



離岸流については
次へ!

りがんりゅう

離岸流に注意しましょう！

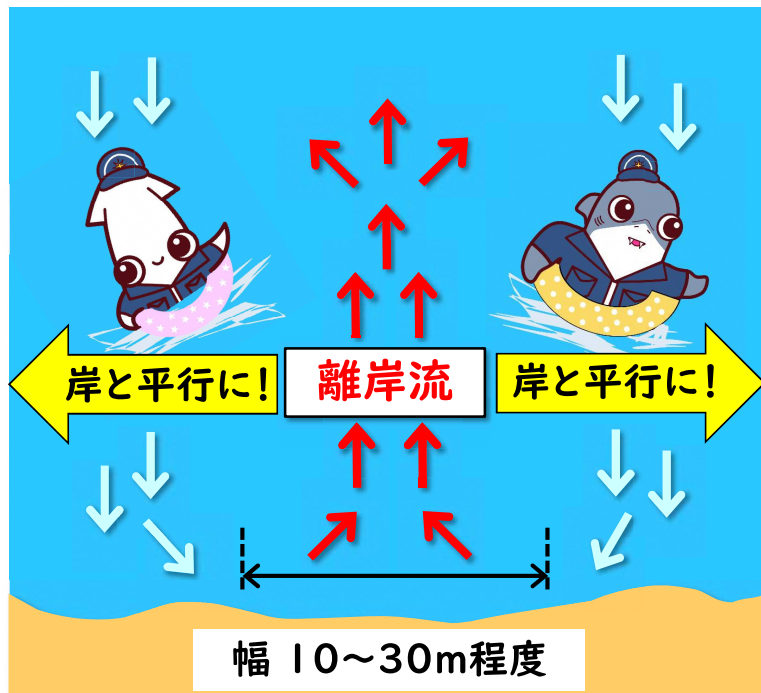
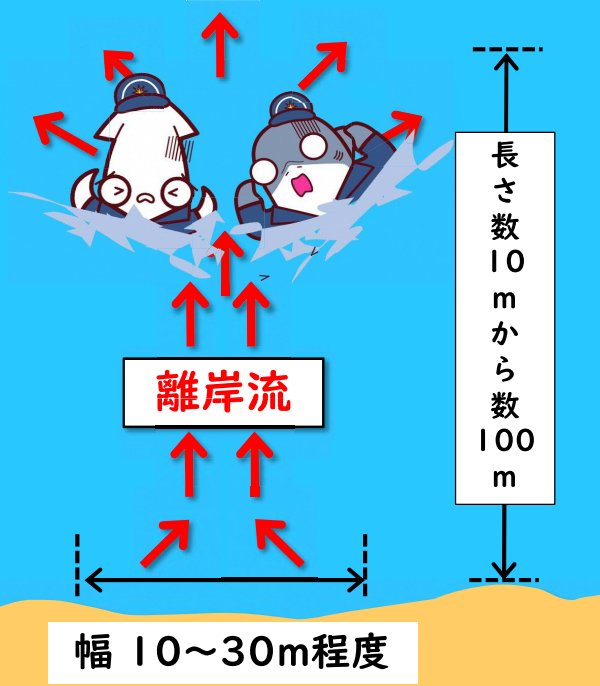
○海水浴場や海岸付近では、岸から沖に向かう流れが発生することがあり、これを「**離岸流**」と呼んでいます。「**離岸流**」に遭うと水際で泳いでいる人があっという間に流されてしまうことがあり、大変危険です。実際に離岸流による死亡事故も発生しています。

-----離岸流による事故事例-----

事故者(中学生)は友人3名と4名で海水浴場の腰がつかう深さで遊泳していたが、離岸流により事故者と友人1名が次第に流されていった。友人は砂浜に打ち上げられたが、事故者は帰還できず、翌日他の海水浴場に打ち上げられているのを発見された。発見時にはすでに心肺停止であった。

★離岸流に遭った時には...

1. まずは、落ち着く(あわてない)
2. 岸に向かって泳がない
3. 海岸と平行に泳いで脱出する
4. 脱出したら海岸に向かって泳ぐ



「**離岸流**」の速さは**毎秒2m**に達する場合(オリンピックの水泳自由形金メダリストが泳ぐ速さ!)もあり、**海岸であればどこでも発生する**可能性があります!